

VIEW

なぜ、C担務を1名にする必要があるのか?!

会社は12月から、現在B担務1名、C担務2名で行っている屋根上作業を、B担務1名、C担務1名にすると話しています。何年も前から現在の体制で行っていて何ら問題もないのになぜ、C担務を1名にする必要があるのでしょうか?

会社は、1月29日の「パンタ舟体落失事故」以降、作業者の明確さやチェックシートなどの増加を行っています。今回の「屋根上作業C担務1名減」が「パンタ舟体落失事故」に関係しているとしたら、とんでもない間違いです。「パンタ舟体落失事故」の原因は作業時間のない中、「初めての作業だったため」と伝え聞いています。この「事故」を作業者のみの責任とするためにはじまったことが「作業者の明確化」や「チェックシート」であり、本来の事故防止からかけ離れた対策であり、今回の「屋根上作業C担務1名減」が屋根上作業の明確化の為だとしたらとんでもない間違いです。作業者の明確さもチェックシートも関係ないのです。

「屋根上作業C担務1名減」反対!!

私達は「C担務1名減」には反対します。それは、今でも大変なのに夏場40℃を越える屋根上作業を1名でさせることは、ただ単に「作業ミス、労災、体調不良」を招くだけです。「パンタ舟体落失事故」の教訓がまったく生かされていません。

会社は、チェックシートを増やしたり、担務の1名削減を行ってきていますが、大交両でも今夏以降「ヒューマンエラー・ゼロ活動」を推進しています。しかし今回の「屋根上作業C担務1名減」は「ヒューマンエラー・ゼロ活動」に逆行しています。

私達JR東海労大交両分会は「人間はミスするもの」と捉え、いかにヒューマンエラーを少なくするのか、いかにリカバリーするのかを考えます。そのためには、よい職場環境とゆとりある作業時間が必要です。「屋根上作業C担務1名減」はこのことに逆行しています。

私達は屋根上作業を現在行っているB担務1名、C担務2名体制を確定し、「作業者の明確化」が必要というなら、現在行っている作業体制下における分担の明確で事足りると考えます。